



成分：代表的な酵素(たんぱく質)
耐熱性分子シャペロン（例：HSP90）
耐熱性キチン質分解酵素
耐熱性・抗菌リボペプチド

キチン酵素とは

日本近海の深海底にある熱泉鉱床などに生息する好熱性細菌の複合群を高温培養して抽出された酵素です。この酵素は数えきれないパワーを秘めており、地球創成期の土壤環境に近づけ、植物本来の生命力を蘇らせる資材です。

- 微生物の多様化により土壤生態系の改善
→連作障害の防止
- 生体防御関連遺伝子群の発現誘導
→免疫力を向上し外敵を寄せ付けない植物体へ
- 植物生長ホルモン オーキシンを運ぶ
→発根・生育促進・収量増加
- アミノ酸増加・硝酸の吸収を制御
→うまみ、日持ち・糖度、ビタミンCのアップ



キチン酵素の特徴

海底の熱鉱泉床(摂氏60~90度)熱水噴出孔付近で育った有用微生物群の耐熱性酵素は急激な温度変化に左右されず、また、強酸・強アルカリの環境でも変性しません。ですから農薬に含まれる有機溶媒に対して安定。全ての農薬・液肥と混用が可能です。

使用方法

露地栽培

- ① 定植前処理
作付け前の畑へ倍率を問わずキチン酵素 10kg / 10a を全面散布し、その後耕運（連作障害のある圃場は 20kg / 10a）

- ② 育苗期
播種時 1,000 倍液を灌水
育苗中 週1~2回 1,000 倍液を灌水

- ③ 定植時
活着促進のため 500 倍液を充分に灌水

- ④ 葉面散布
果菜類・葉菜類共に薬剤散布や液肥散布時には必ずキチン酵素 1,000 倍液を混用散布 曇天時には、カルシウム剤と微量元素液を混用散布するとさらに効果的です。

- ⑤ 果菜類
栽培期間中 週1回 500cc ~ 1L / 10a を液肥、または灌水と共に投入

施設栽培

- ① 育苗期
播種時 1,000 倍液を灌水
育苗中 週1回 1,000 倍液を灌水

- ② 初期投入時
果菜類 1,000 ~ 2,000 倍に調整
葉菜類 2,000 ~ 3,000 倍に調整

- ③ 栽培中
肥料原液タンクのリン酸含有
原液タンク側に原液100Lに対し
キチン酵素 1L の割合で投入

注) 肥料が欠乏している場合には、追肥 または液肥を同時に散布 又は灌注して下さい。
根に酵素が触れる使い方が最も有効的です。

お問い合わせ先：

